

質問回答

NO.	質問	回答
1	<p>熱中症予防情報サイト、および、他のAPI（他のAPIがあれば）で使用されている開発言語（HTML、JavaScript、Java、PHP、等）、ソフトウェア、ハードウェア、データベース、サーバーのOSが何であるかご教示いただけますでしょうか。</p>	<p>熱中症予防情報サイトの開発言語…Perl 5.26、PHP 7.4 ソフトウェア、OS…Rocky Linux 8.10、Apache-2.4 ハードウェア…なし（AWS） データベース…PostgreSQL 13.20 （Amazon Aurora and RDS上）</p>
2	<p>API公開対応について質問いたします。 調達仕様書の2.1.調達範囲に以下の記載があります。 「本調達では、熱中症予防情報サイトに係る予測値・実測値及び実況値を容易に取得できるシステム開発を行うものとする。本調達が対象とする業務範囲は、API機能追加から熱中症予防情報サイトでの提供まで一連の業務すべてとする。」 また、3.1.作業の実施内容に関する事項に以下の記載があります。 「保護機能の実装にあたっては、非機能要件定義書（概要版）に記載の内容を基本としつつ、本システムに必要な非機能要件について調査・検討を行い、要件定義書に盛り込む。」 上記を踏まえて一点質問いたします。非機能要件の設計は本業務の調達範囲であるという認識ですが、それら非機能要件のAmazon Web Services上での公開対応（構築作業）は本業務の調達範囲でしょうか。それとも、運用基盤の保守・運用事業者様など、別の事業者様が実施するのでしょうか。</p>	<p>本業務では、3.1.（2）に記載の通り、API機能追加の要件定義をしていただき、その要件定義に基づいて基本設計、詳細設計、開発、試験、導入をしていただくことになります。3.1.（1）の2段落目に記述の内容は、当該要件定義にあたって反映すべき事項について記述したものになりますので、その後の基本設計、詳細設計、開発、試験、導入までが本業務の調達範囲となります。</p>
3	<p>APIのアクセス制御に関する、仕様書の記載内容について質問です。 「非機能要件定義書（概要版）」の1ページ目、「3.API公開に伴う課題と対策」の「(1) 接続元の識別」に、「本サイトで公開するデータがオープンデータであることを踏まえ、APIキーを使わず に、IPアドレス制限や匿名トークン（一時的なアクセスキー）により アクセス制御を行うことを検討する。」とありますが、この「匿名 トークン（一時的なアクセスキー）」と呼ぶ機能の意図と、及びユースケース（当該の機能を使用して実現するAPI利用応答の具体例）をご教示いただけますでしょうか。</p>	<p>匿名トークンについては、オープンデータであることを前提に、API公開後に想定以上の高頻度アクセスが発生した場合、特定のアクセスを一時的に抑制・ブロックしたり、アクセス元を一定程度把握したり、過負荷や悪用リスクを下げたりといった軽度なアクセス制御を、利用者登録や厳格なAPIキー運用を行わずに実施する手段の例として提示したものです。ユースケースとしては、ウェブ画面上で簡単な操作（利用規約の同意等）によりトークンを取得し、そのトークンを付与してAPIを利用させ、異常アクセスがあった場合に該当トークンのみを無効化することで、全体への影響を抑制するといった対応を想定しています。</p>
4	<p>APIの性能に関して、「非機能要件定義書（概要版）」の1ページ目、「2. 非機能要件の基本方針」に「性能：通常アクセスに対しては2秒以内の応答時間目標とする。」とあり、「拡張性：将来的なデータ量・利用者増加にも対応できるスケーラビリティを確保する。」とあります。 この点について、アクセス規模とリクエスト内容によっては、相当な大きなデータベースインスタンスが必要と考えられますが、必要に応じてRDSのサイズは大きいものが準備されるという前提で問題ないでしょうか。 また、「通常アクセス」には、過去データの取得リクエストも含まれるでしょうか。過去データの処理は、リクエスト内容によってはキャッシュも有効ではなく、目標時間を超過する場合もありそうです。そのような場合を考慮すると、リクエストの受付処理や、データ作成完了通知などの機能を、検討する必要があるでしょうか。</p>	<p>本業務の実施に合わせてデータベースの増強等を実施することは計画しておりませんので、基本的には現行データベースや、同時期に実施予定の「令和7年度環境省熱中症予防情報サイト改修等事業（オープンデータ化）業務」において構築される予定の予測値のデータベースを前提として、目標とする性能を満たすAPIの構築を目指していただきます。ご指摘の記述については、API対応機能の構築にあたって、将来的なデータ量・利用者増加に際してデータベースの増強を実施すれば、API対応機能については軽微な改修で対応可能な設計とすることを意図したものです。なお、過去データについても、一度のリクエストでダウンロードできるデータ量を制約することなどで目標とする性能を満たすことを想定していますが、目標は絶対的なものではありませんので、利用者の利便性も考慮し、目標を上回る応答時間を前提とした設計とすることは考えられ、詳細は受注者と環境省、運用基盤や熱中症予防情報サイトの保守運用事業者で協議の上決定します。なお、応答時間にかかわらず、利用者の利便性のためのリクエストの処理状況の通知機能等については、積極的にご提案いただけますと幸いです。</p>